

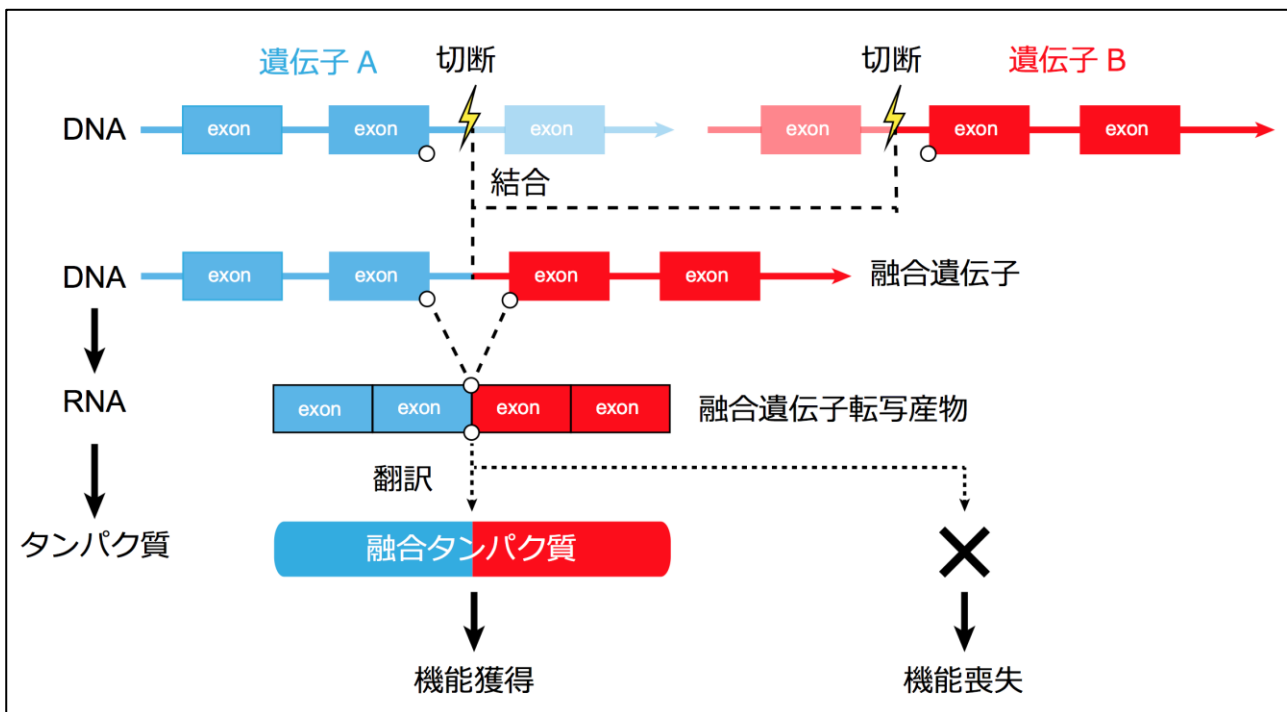
## 婦人科癌の治療標的融合遺伝子の探索

### 【研究の背景】

融合遺伝子は、がん化に関与するだけでなく、治療標的として重要なゲノム異常です。ABL阻害剤は、*BCR-ABL*融合遺伝子陽性慢性骨髄性白血病の完全寛解率を20%から90%まで引き上げ、最近開発された新規ALK阻害剤はALK融合遺伝子陽性非小細胞肺癌に対し93.5%と非常に高い奏効率を示しており、融合遺伝子は治療標的として世界的に注目されています。しかし、現在のところ婦人科癌において融合遺伝子を標的とした分子標的薬は開発されておられません。

### 【研究の目的】

本研究では、RNAシーケンスデータを用いた融合遺伝子の網羅的検索を行い、婦人科癌における治療標的融合遺伝子を同定することを目的としています。最終的には、融合遺伝子を標的とした新規治療薬の開発を行い、婦人科癌の予後改善を目指しています。



### 【これまでの成果】

- 卵巣癌、子宮体癌についてRNAシーケンスデータを用いて、網羅的に融合遺伝子の検索を行い、治療標的となる融合遺伝子候補を同定している。
- 子宮頸癌について、治療標的となりうるキナーゼ融合遺伝子が一定の割合で存在することを明らかにしている。

### 【今後の研究】

現在、治療標的融合遺伝子候補の機能解析を進めており、その治療標的としての有用性について評価している。今後、融合遺伝子を標的とした新規薬剤の開発を目指す予定である。さらに、治療標的としてだけでなく、婦人科癌における融合遺伝子の役割を明らかにすることにより、婦人科癌の病態解明を目指しています。